

製品名: TNF- α ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab19095

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	16kDa

抗原情報

遺伝子名	TNF
別名	TNF; TNFA; TNFSF2; Tumor necrosis factor; Cachectin; TNF-alpha; Tumor necrosis factor ligand superfamily member 2; TNF-a
遺伝子 ID	7124.0
SwissProt ID	P01375
免疫原	抗血清はヒト TNFA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

背景

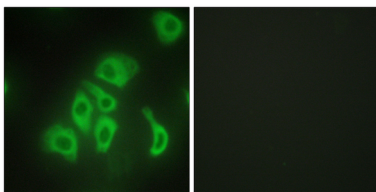
この遺伝子は、腫瘍壊死因子 (TNF) スーパーファミリーに属する多機能炎症性サイトカインをコードしています。このサイトカイン

は主にマクロファージから分泌され、受容体 TNFRSF1A/TNFR1 および TNFRSF1B/TNFR2 に結合し、それらを介して機能します。このサイトカインは、細胞増殖、分化、アポトーシス、脂質代謝、凝固など、幅広い生物学的プロセスの調節に関与しています。このサイトカインは、自己免疫疾患、インスリン抵抗性、がんなど、様々な疾患への関与が示唆されています。マウスを用いたノックアウト研究では、このサイトカインの神経保護機能も示唆されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: 悪液質は、がんや感染症などさまざまな疾患を伴い、全身状態の低下と栄養失調が特徴です。、疾患: TNF の遺伝子変異は、B 型肝炎ウイルス感染症 (HBV 感染症) の感受性と関連しています[MIM:610424]。肝硬変症例の約 3 分の 1 と肝細胞癌症例の半分は、慢性 HBV 感染に起因する可能性があります。HBV 感染は、無症状または無症候性の感染、急性の自然治癒型肝炎、または肝移植を必要とする劇症肝炎を引き起こす可能性があります。、疾患: TNF の遺伝子変異は、乾癬性関節炎の感受性と関連しています[MIM:607507]。乾癬は、人口の約 2% が罹患する慢性的な炎症性皮膚疾患です。乾癬性関節炎は、通常、頭皮、肘、膝に見られる赤い鱗屑状の皮膚病変を特徴とし、重度の関節炎を伴う場合があります。乾癬性関節炎は、血清中にリウマチ因子が通常認められない炎症性関節炎 (血清陰性関節炎) として定義され、乾癬に関連しています。、機能: TNFRSF1A/TNFR1 および TNFRSF1B/TNFR2 に結合するサイトカイン。主にマクロファージによって分泌され、特定の腫瘍細胞株の細胞死を誘導することができます。直接作用またはインターロイキン -1 分泌の刺激によって発熱を引き起こす強力な発熱物質であり、悪液質の誘導に関与しています。特定の条件下では、細胞増殖を刺激し、細胞分化を誘導することができます。、オンライン情報: シンガポールヒト変異および多型データベース、オンライン情報: 腫瘍壊死因子アルファエントリー、PTM: O-グリコシル化;グリカンにはガラクトース、N-アセチルガラクトサミン、N-アセチルノイラミン酸が含まれる。、PTM:膜型はセリン残基がリン酸化されるが、可溶型はリン酸化されない。膜型の脱リン酸化は、可溶性 TNFRSF1A/TNFR1 との結合によって起こる。、PTM:可溶型は膜型からタンパク質分解によって生成される。、類似性:腫瘍壊死因子ファミリーに属する。、サブユニット:ホモ三量体。、

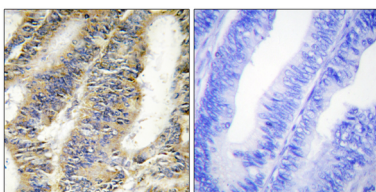
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;アポトーシス抑制;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;TGF-beta;Toll_Like;NOD 様受容体;RIG-I 様受容体;造血細胞系;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害;T 細胞受容体;Fc イプシロン RI;アディポサイトカイン;2 型糖尿病;1 型糖尿病;アルツハイマー病;筋萎縮性側索硬化症 (ALS);喘息;全身性エリテマトーデス;同種移植拒絶反応;移植片対宿主病;肥大型心筋症 (HCM);拡張型心筋症;

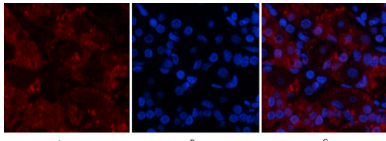
画像データ



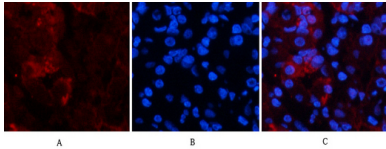
TNFA 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



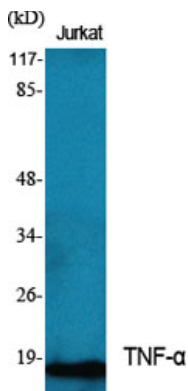
TNFA 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



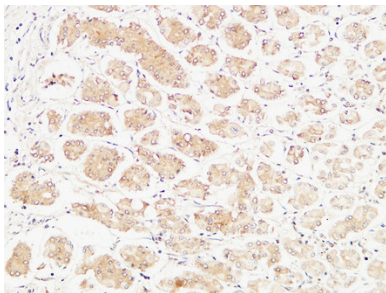
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, TNF- α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



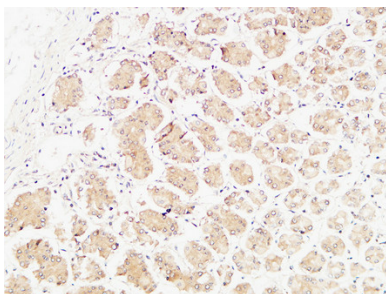
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, TNF- α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



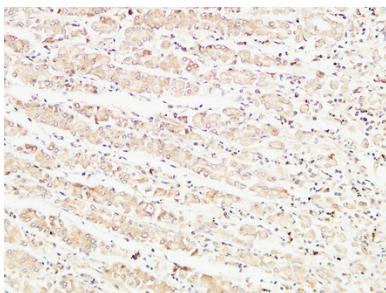
TNF- α ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°C、一晩)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°C、一晩)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°C、一晩)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。